



審査講評

第五十九回展審査部長

加藤 東陽

第五十九回全日本書初め大展覧会において、栄えある賞に輝いた皆さんに心からお祝い申し上げます。

今年も、新型コロナウイルス流行の規制緩和の状況を見ながらという厳しい状況の中、全国各地より、席書の部二千九百四十八点と公募の部一万八百七十六点、合わせて一万三千八百二十四点の力作が寄せられました。

審査会「席書の部」は一月六日、日本武道館において二十一名の審査委員の投票によって、「公募の部」は同二十二日に二十名の審査委員によって公正かつ厳正に行われました。その結果、内閣総理大臣賞は釣瑞月さん（席書の部）、日本武道館大賞は安藤凜さん（公募の部）、文部科学大臣賞には金子真由香さん、松野日咲さん（席書の部）、羽田百佳さん、鈴木積舟さん（公募の部）が受賞されました。誠におめでとうございます。

席書及び公募の作品のレベルも年々向上しており、審査にも自然と力が入りました。殊に席書では二枚しか書けない緊張感の中で、大太鼓の合図と共に一心不乱に各々の課題に取り組む姿には心打たれました。

審査方針は、全国的視野から、ひとつの書きぶり（書風）や地域の偏りが無いよう配慮すると共に、小・中学生の作品においては書写の観点を重視し、高校・大学生及び一般の作品においては古典を背景にした書の芸術性に重きを置いて、作品一つひとつを鑑賞しながら丁寧に審査しました。

さて、今回小学生・中学生の部で受賞された皆さんの作品は、日頃の精進の成果として、楷書や行書の基本的な書写力をしっかりと身に付け、書初めとして筆を持つことへの自信や喜び、そして更に前進したいという意欲等が紙面から感じられる堂々とした立派な作品でした。

また、高校生・大学生及び一般の部では、漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書の分野を問わずに、力強い作品、美しく流麗な作品、繊細な作品、のびやかな作品など、風趣に富んだ作品が選ばれました。具体的には、書初め展にふさわしい語句を、練度の高い創作作品として、又は創作へのステップとしてレベルの高さを示した臨書作品等が高い評価を得ました。

来年、本展は第六十回記念の開催を予定しております。来年も全国から多数の力作にお会いできることを期待し、審査講評といたします。